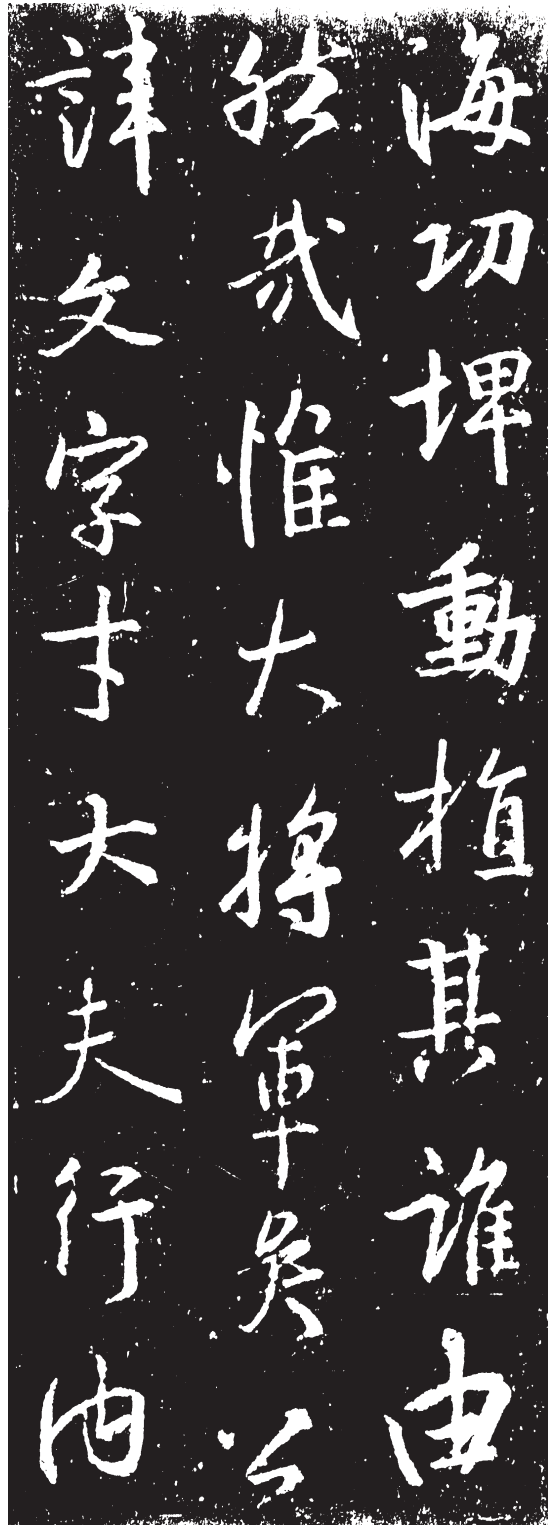


興福寺断碑



(名溢寰)海。功埤動植。其誰由然哉。惟大將軍矣。公諱文。字才……大夫行内(給事。)
 (名は寰海に溢れ)功は動植に埤す。其れ誰か由お然らんや。惟れ大將軍なり。公諱は文、字は才……大夫・行内(給事。)

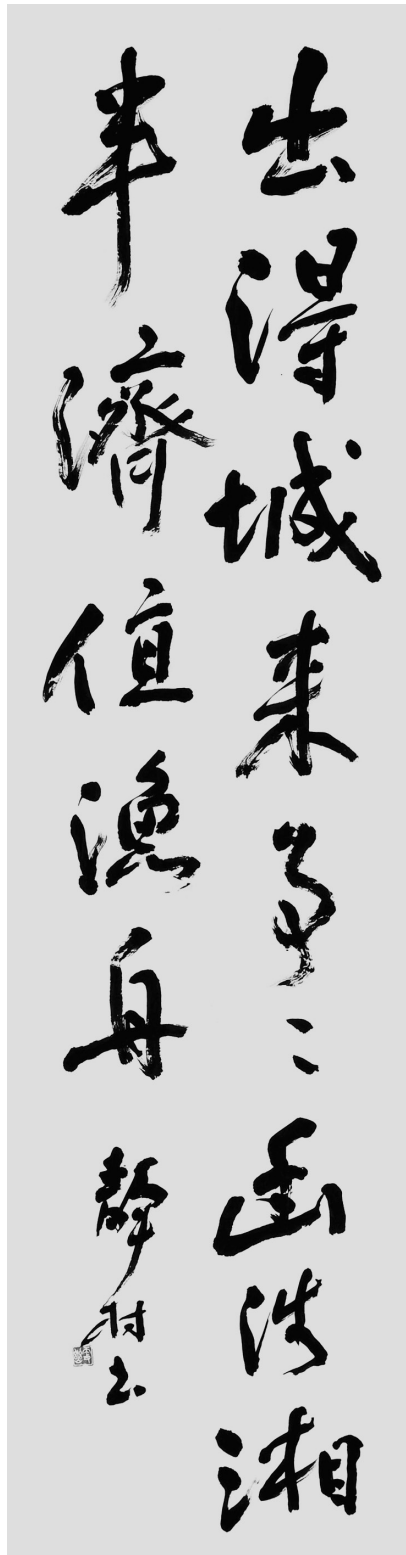
※昇試随意参考(条幅・半紙)としてご利用下さい。抜粹可。

◆注意 ・裏表紙の昇試規定を参照のこと。

A

鈴木静村書

出得城来事幽 涉湘半濟值漁舟 (楊万里)
城を出ずるを得て来たれば事幽なり、湘を涉らんとして半ば濟りて漁舟に値う。



B

高橋香樹主幹書

戦前の古い短鋒(和筆)使用。何となく弾性に違和感? 私自身の気力・体力の劣化への傾きも大きい。今後への対処を痛感の一場面。二行目の墨継ぎ不明確。二行目下半は全体の緊めとしてこの作の主要部。効果的表出を打ち出したい。城 字幅をとり入れ、戈法を有効に。事行書体が適切か。墨継ぎの幽涉湘 大小の変化。濟 旁、多様な書き方 字典参照。値 墨継ぎ、行書体。舟 末画の横画は下辺で結ぶ。



今月は行書による作。単体表現に過ぎた為か、字間の意連に乏しく縦への流れに欠けたか。横広がりの結体を多用し過ぎたことも原因となっている。やはり、次字への意識をもっと明確にしなければならない。墨継ぎは「幽・濟」。三ズイが四字あるが、その変化にも心懸けたい。
訳：街から出てやって来ればものごとすべてひそやかに湘水をわたらうと半分もくればつり舟と出あう。

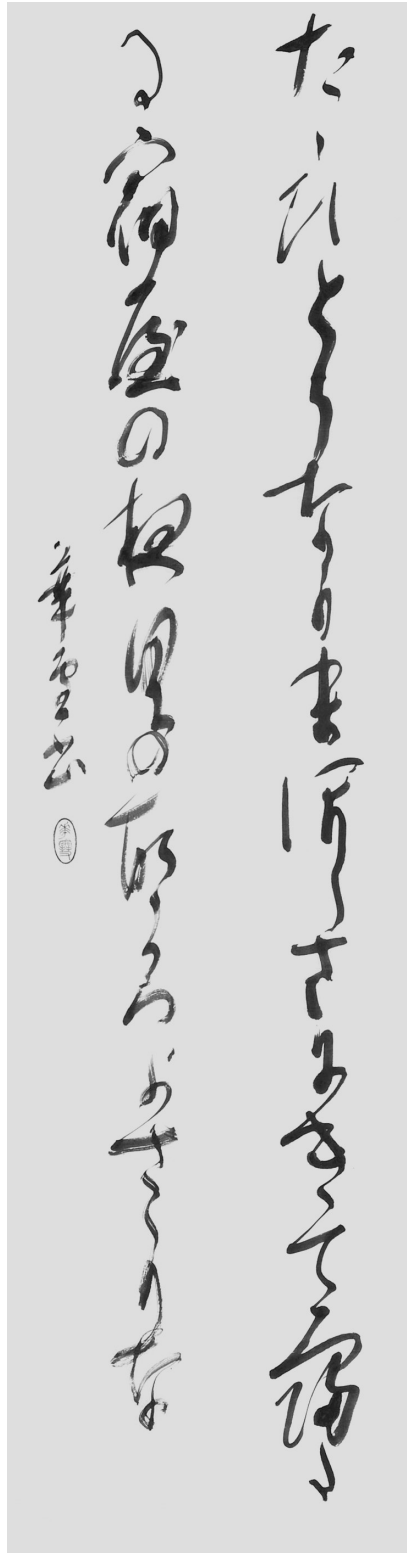
予告 (四月二十二日締切) 夢回春草池塘外 詩在梅花烟雨間 (楊公園)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

A

平岡華雪先生書

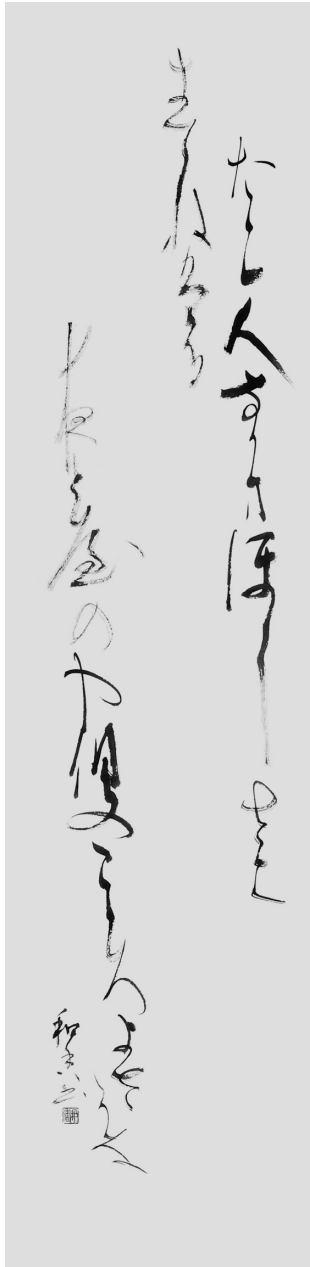
ただひとり泣かまほしさに来て寝たる宿屋の夜具のころよさかな
 た、ひとりな可まほしきさるきて寝多る宿屋の夜具の故、ろよさかな
 (石川啄木)



B

小林和香先生書

た、ひとりな可まほしきさるきて寝たる夜と屋のや俱のこ、ろよ左可奈
 (石川啄木)



学び方

歌意：生活上の様々な不如意にせまられ追いつめられて、一人泣きたくなくなって来た宿は、贅沢ではないが肌に触れる洗いたての夜具がなんと心地よいことか…

かなは優雅で流れが美しい。その中に躍動感や強靱さも要求されます。何より線質が大切で厳しくも味わいのある流麗な線が引けたらいいと思う。また隣の行との響き合い、余白も大切な要素です。潤濁、太細、文字の大小、字間、字幅をうまく駆使して作品に立体感をもたせましょう。この作品もそのようなところに注意を払い、漸増漸減、運筆の遅速に気を付けて書いてください。

予告 (四月二十二日締切)

やはらかに柳あをめる北上の岸辺目に見ゆ泣けごとくに (石川啄木)

石川啄木

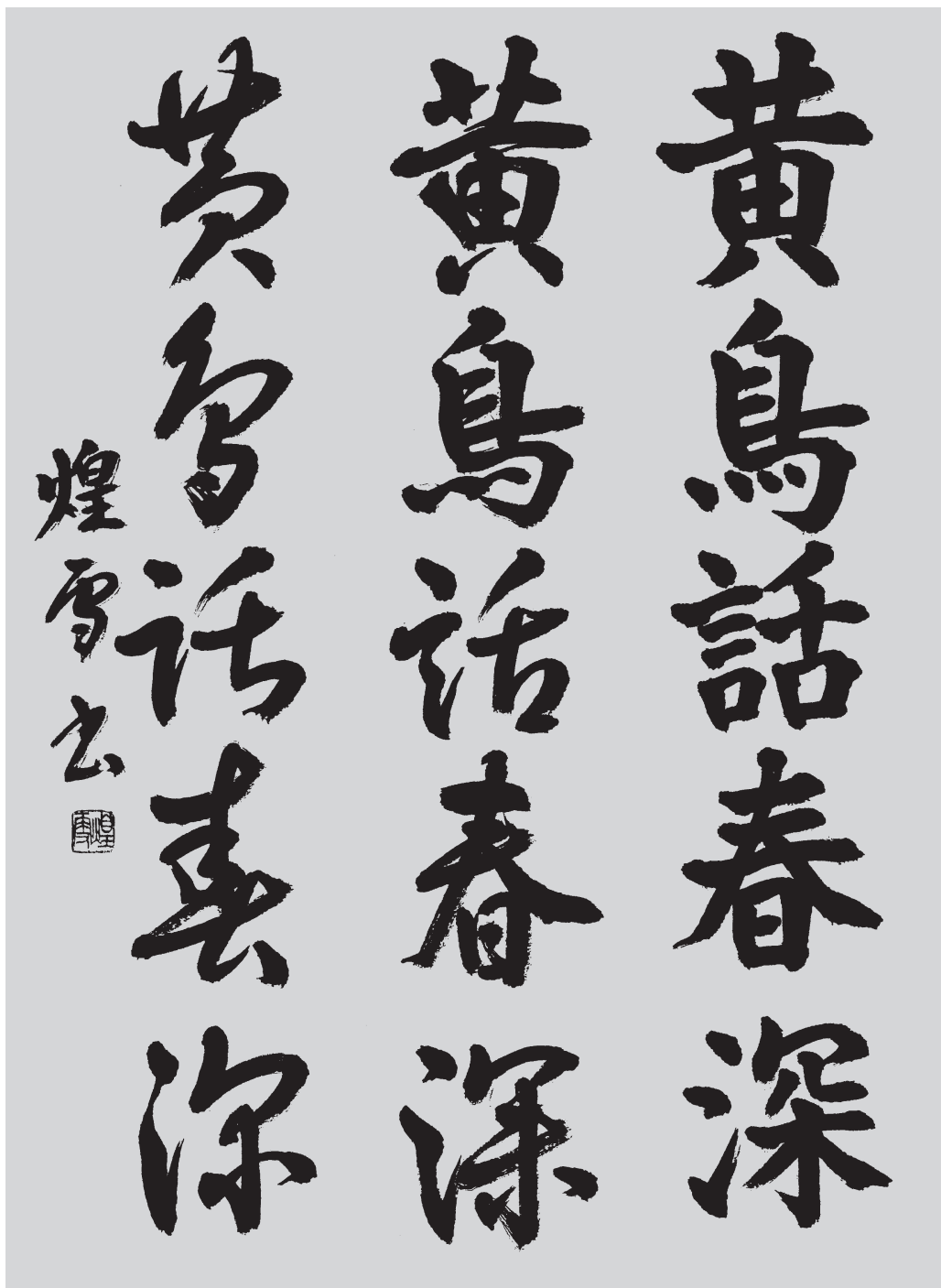
(一八八六～一九二二)

岩手県生まれ。「明星」を読んで文学への志を抱き、中学校を中退して上京。明治三十八年、節子と結婚し盛岡に戻り洪民小学校の代用教員となるが生活の困窮から妻子を残し函館に向かい、札幌、小樽、釧路と移り住んだ後再度上京。妻子や父母を東京に呼び寄せるが、明治四十五年、肺結核により病没。歌集『一握の砂』『悲しき玩具』詩集『あこがれ』『呼子と口笛』。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

星野煌雪先生書

黄鳥話春深(戴復古)
黄鳥春を話すること深し。

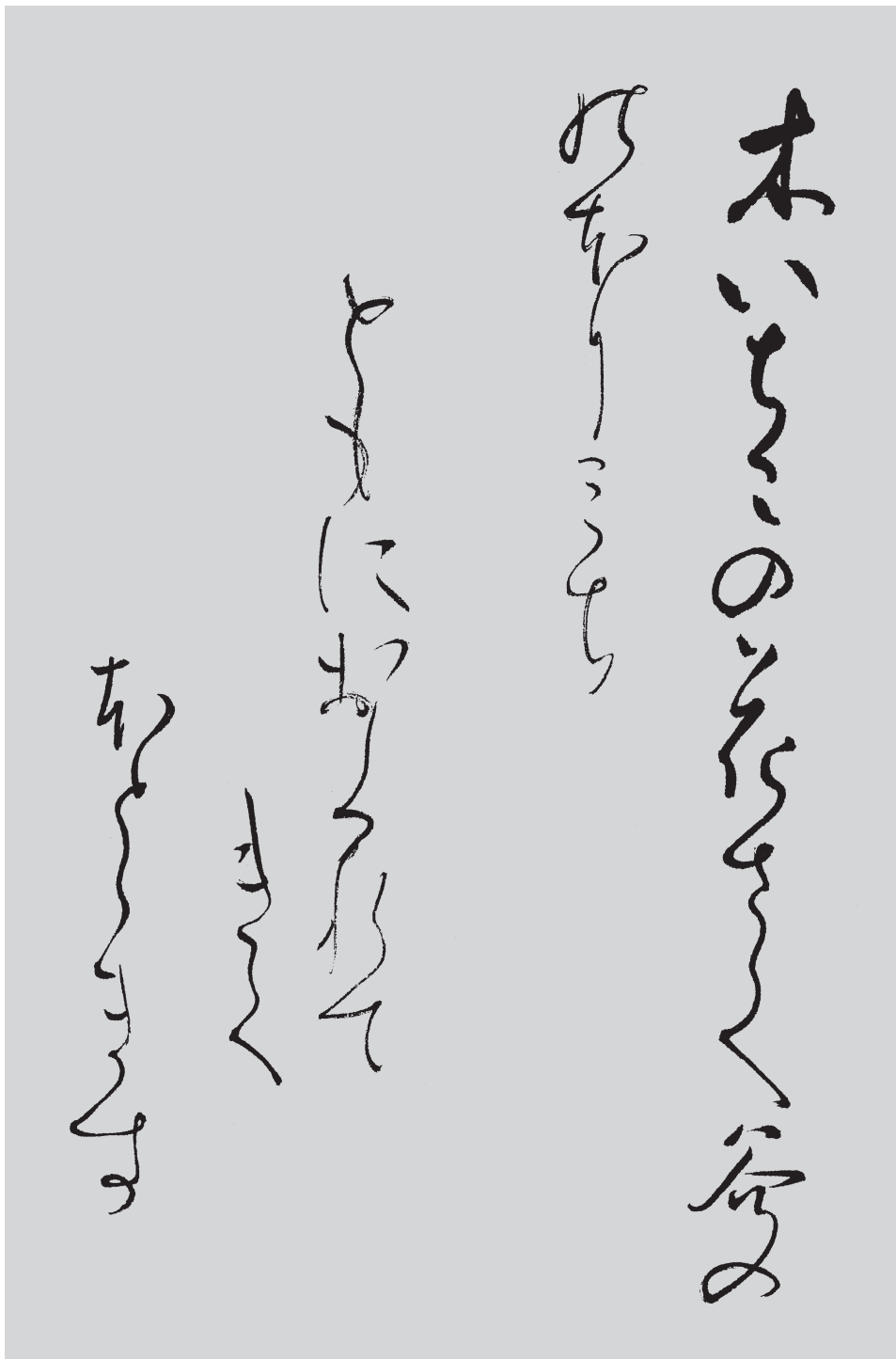


訳：鶯は窓外で終日啼いている。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

高塚竹堂先生書

木いちこの花さく谷ののぼり道ともにおくれてきくほととぎす(加藤義清)



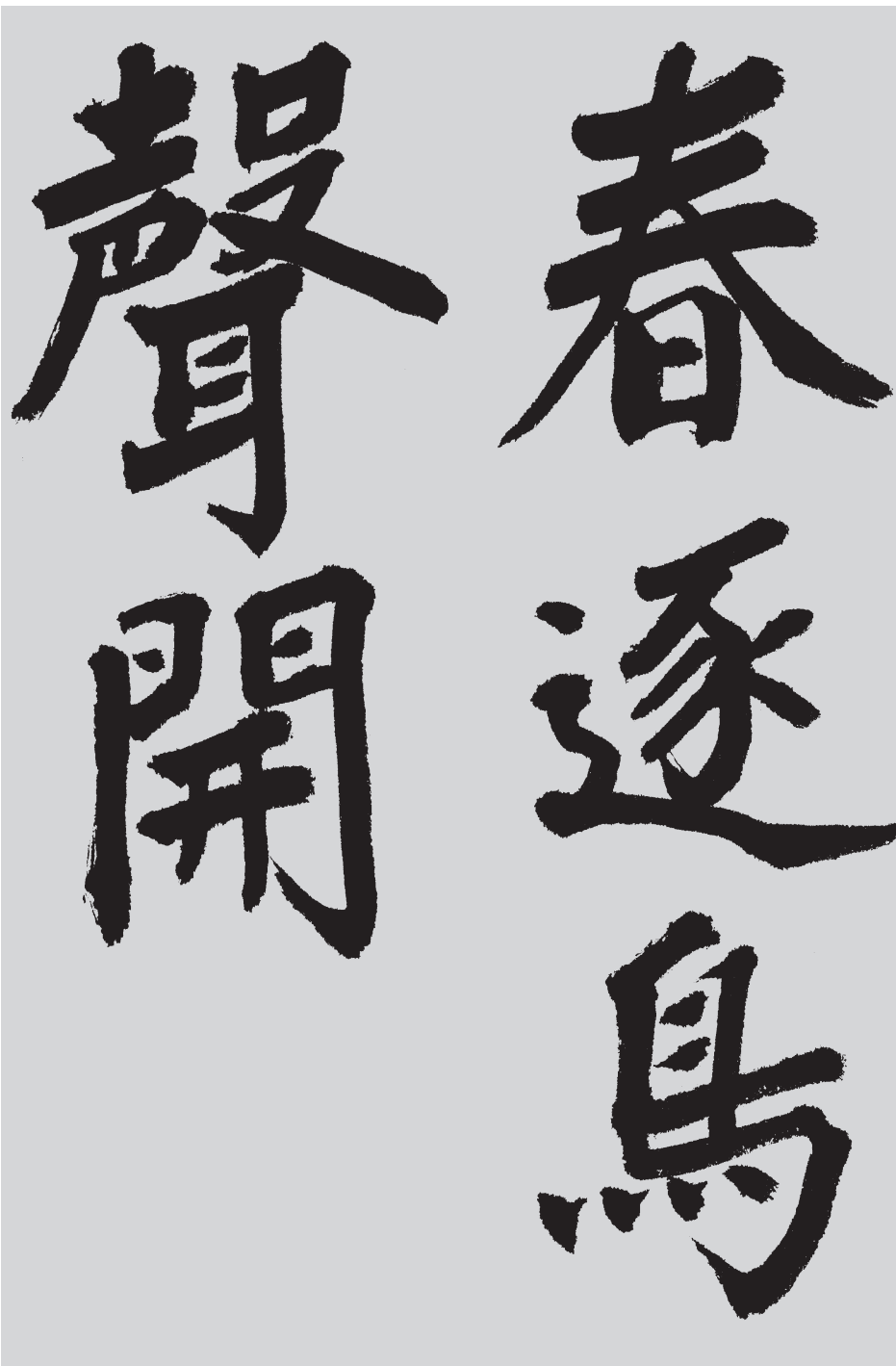
左余白に落款「○○書」と調和を工夫し書き入れる。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

春は鳥声を逐って開く。(太宗)

訳：春が鳥のさえずりと共にはじまる。



〈分間の処理・短横画は弾みよく〉

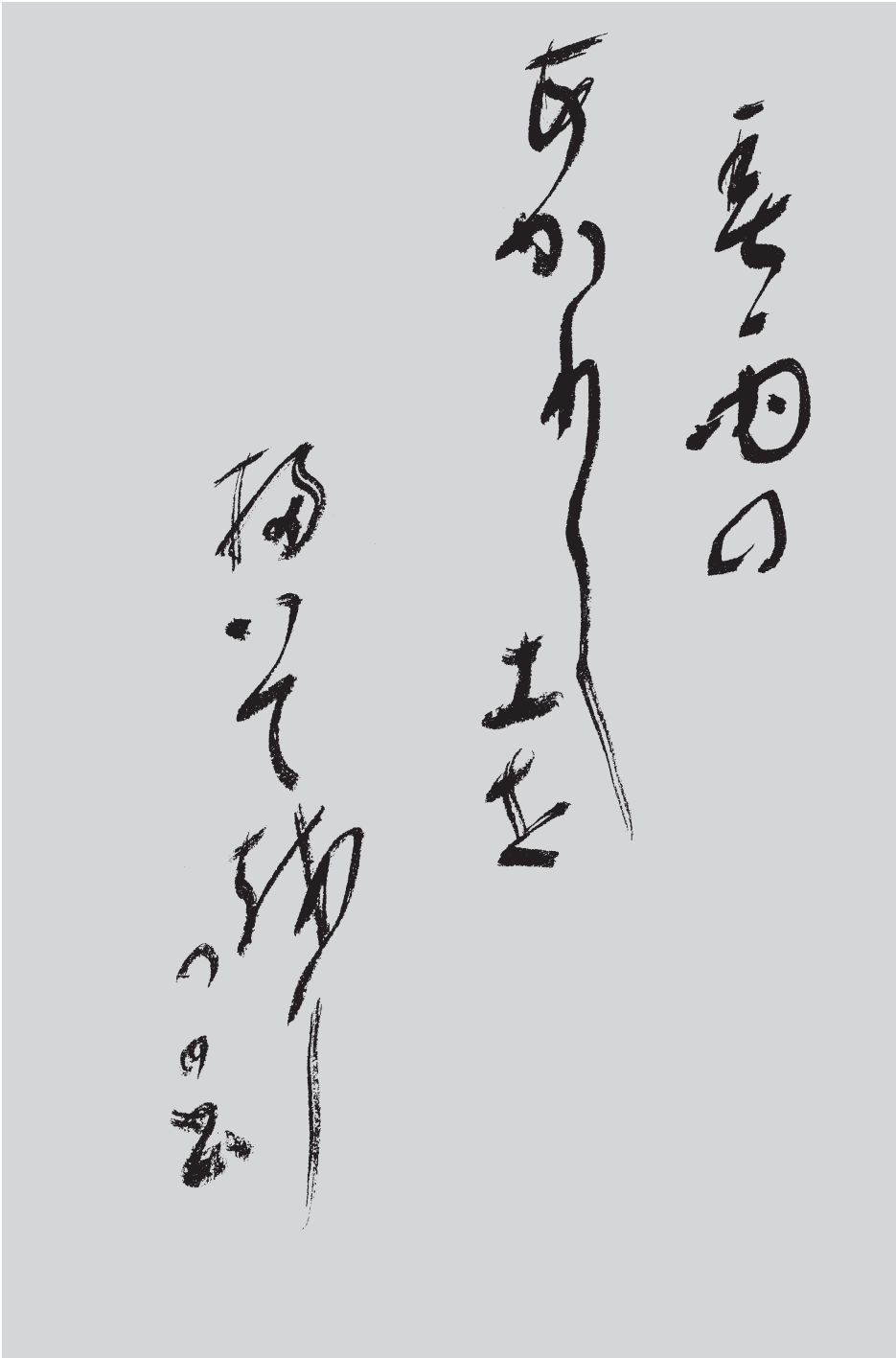
五文字それぞれが分間の処理に留意していただきたい。特に、「聲・開」については、文字構成でポイントになります。

中に入れる分割の画は軽く用筆すると明るく、すっきりとします。弾みを入れると、リズム的になります。「春、鳥、聲、開」の中の短横画です。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

春雨の上りし土を掃いてをり（星野立子）
春雨のあか利し土を掃いて越り



〈書調を感じとること〉
落款まで、ひと筆で書き通しています。書調は素朴で、潤渾がところどころに表出され、自然に変化をみせています。根本は、遅速・抑揚のリズムです。まず書調を自分として感じとり、部分練習を。ここで遅速、抑揚を会得して下さい。この間に、字形、連綿を頭に入れ、漸次思い切って書き通すように。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

戸張丘邨先生書

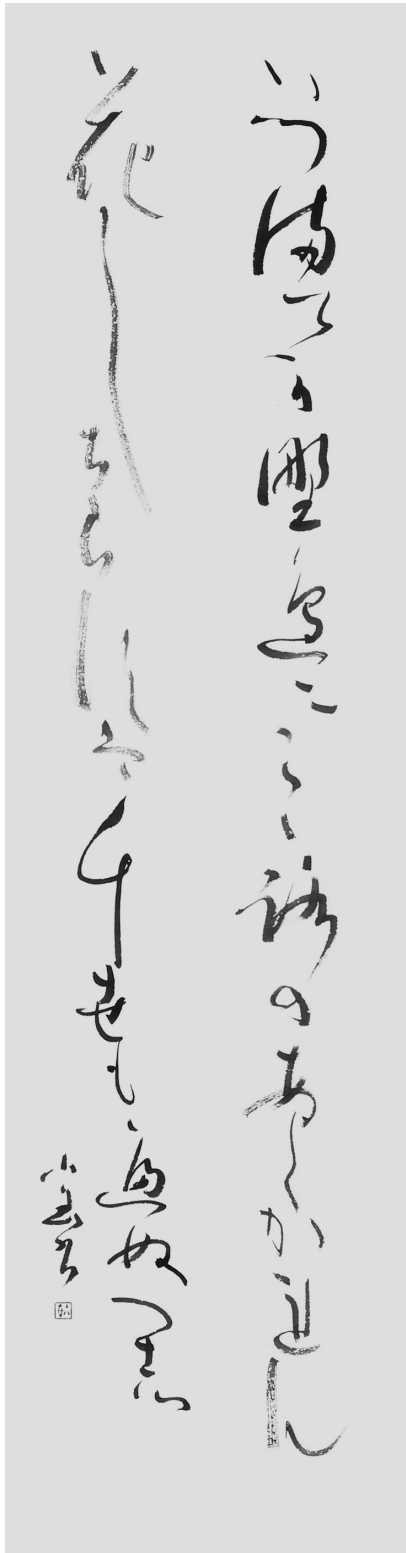
羣山過雨青排闥 春水如苔綠到門（曹錫齡）
羣山雨を過ぎ青闥を排し、春水苔の如く緑門に到る。



訳：群山に雨が降り過ぎて青い山影は小門を侵して来り、春の水は青苔のように緑に門前にまでくる。

高山小玉先生書

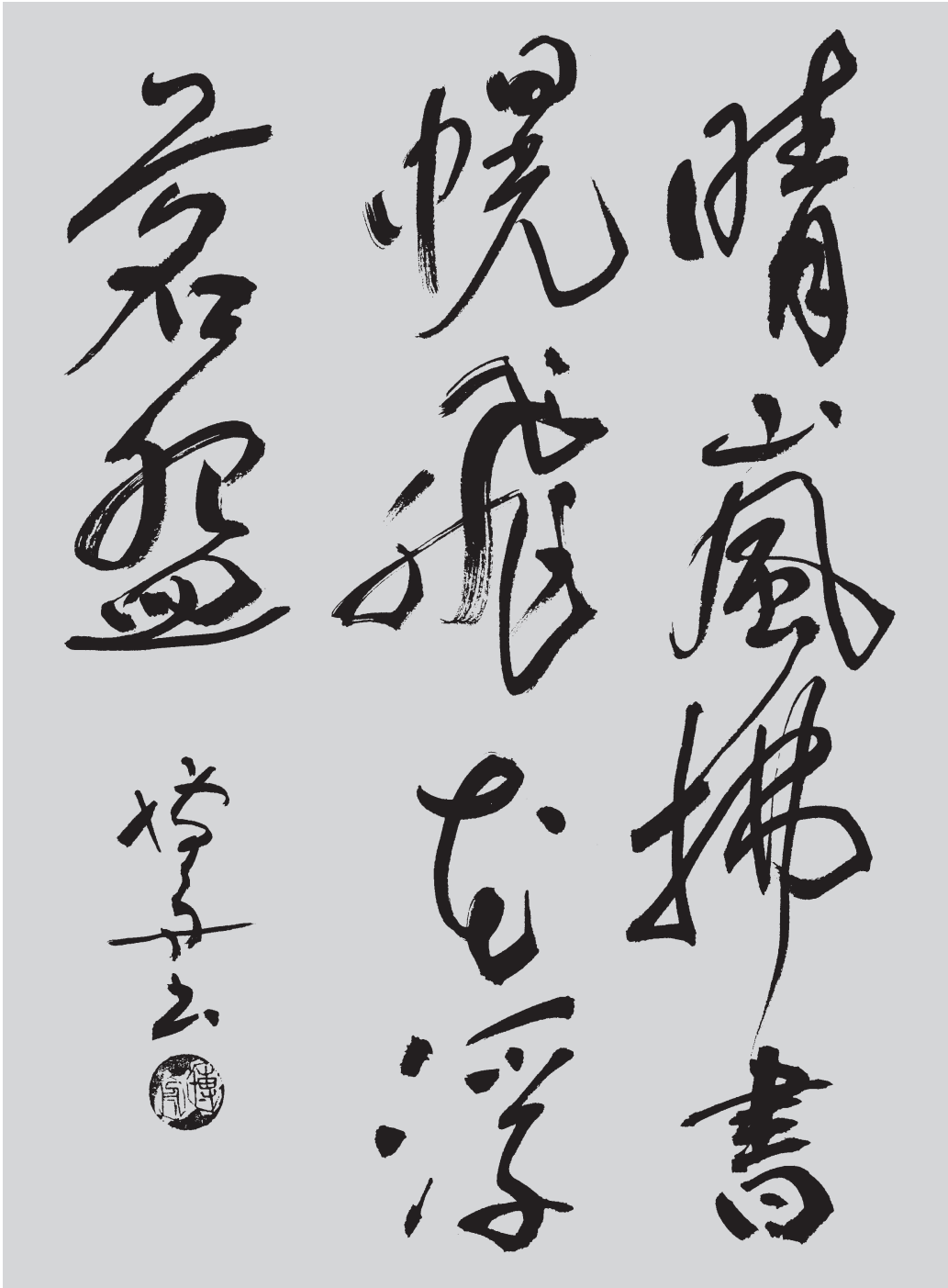
いつまでか野辺に心のあくがれん花し散らずは千世もへぬべし（古今和歌集 素性）
いっまでか野邊にこゝろのあくがれん花し散らずは千世もへぬべし



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

北 沢 博 舟 先 生 書

晴風拂書幌 飛花浮茗盃（王蒙）
晴風書幌を払い、飛花茗盃に浮ぶ。

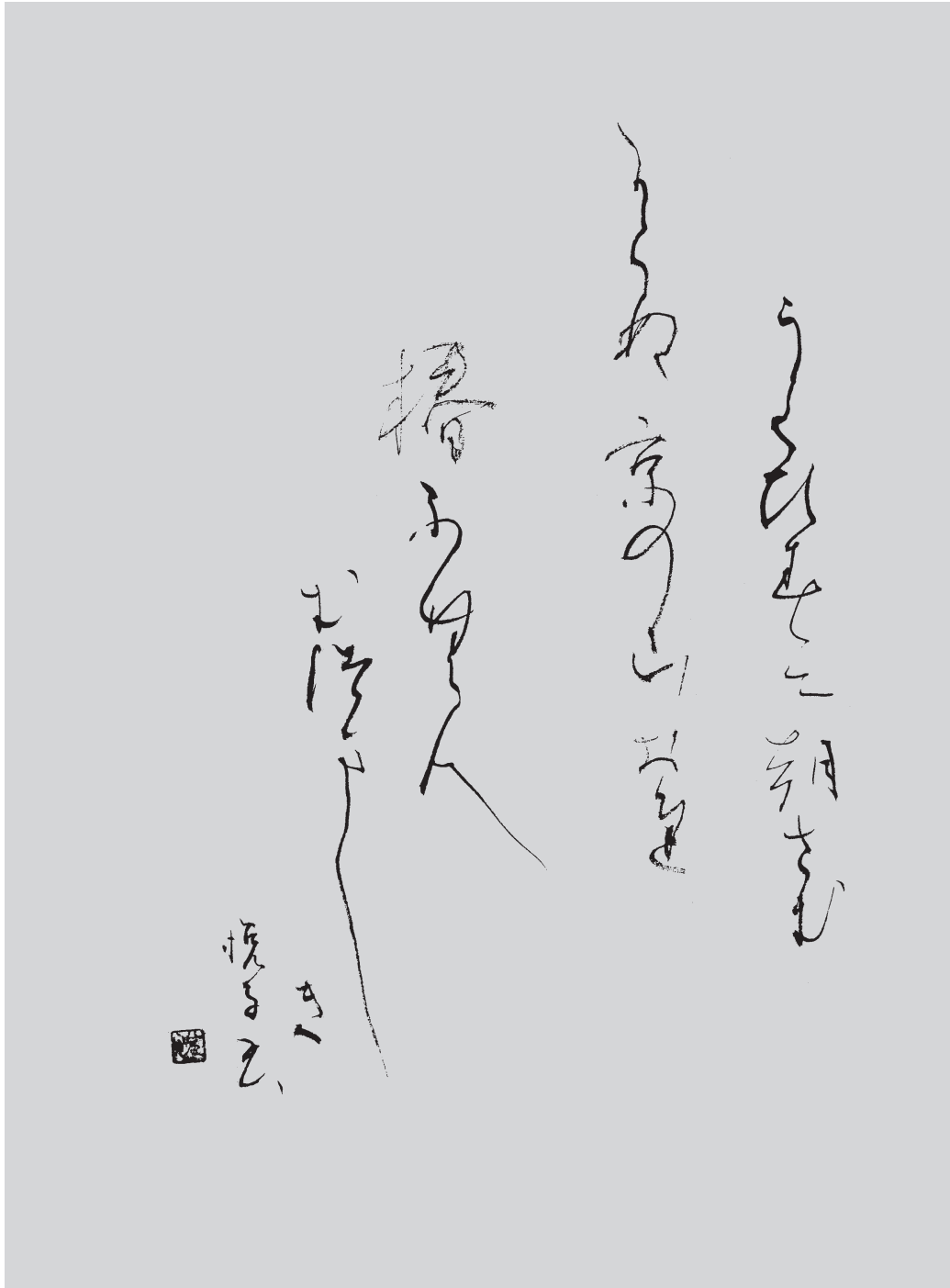


訳：晴れた日の風気は書斎の帳（とばり）を払い、散る花は飛び来って茶碗の中で浮んだ。

◆注 意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

長野悦子先生書

鶯うぐいすに朝寒あさむかひからぬ京きやうの山やまおち椿つばきふむ人ひとむつまじき(与謝野晶子)
う久うひ春はるに朝あさむ可からぬ京きやうの山やまお遅ち椿つばきふ無む人ひとむ徒た万ましき



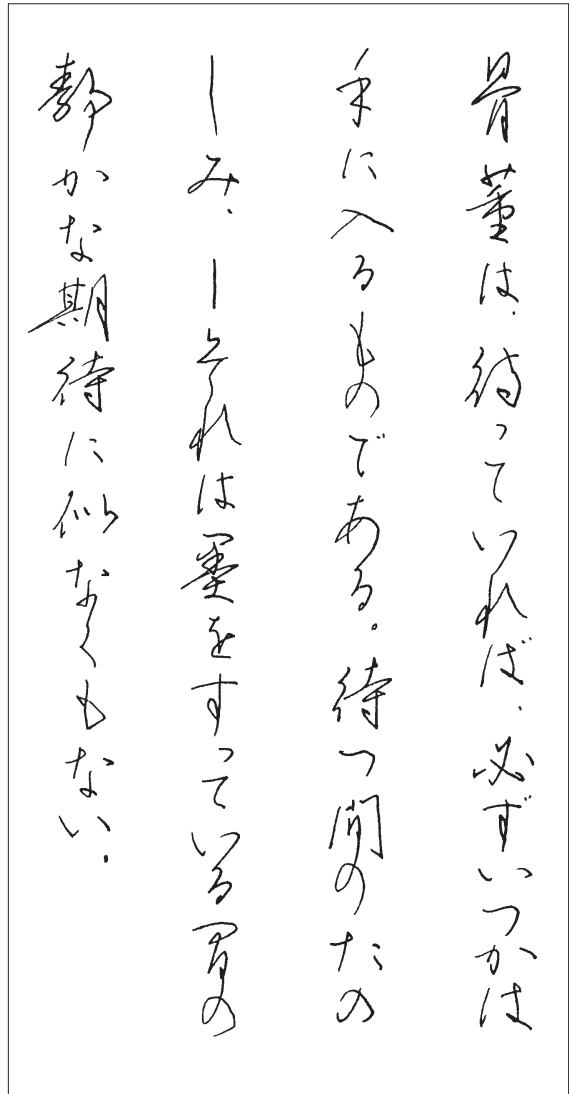
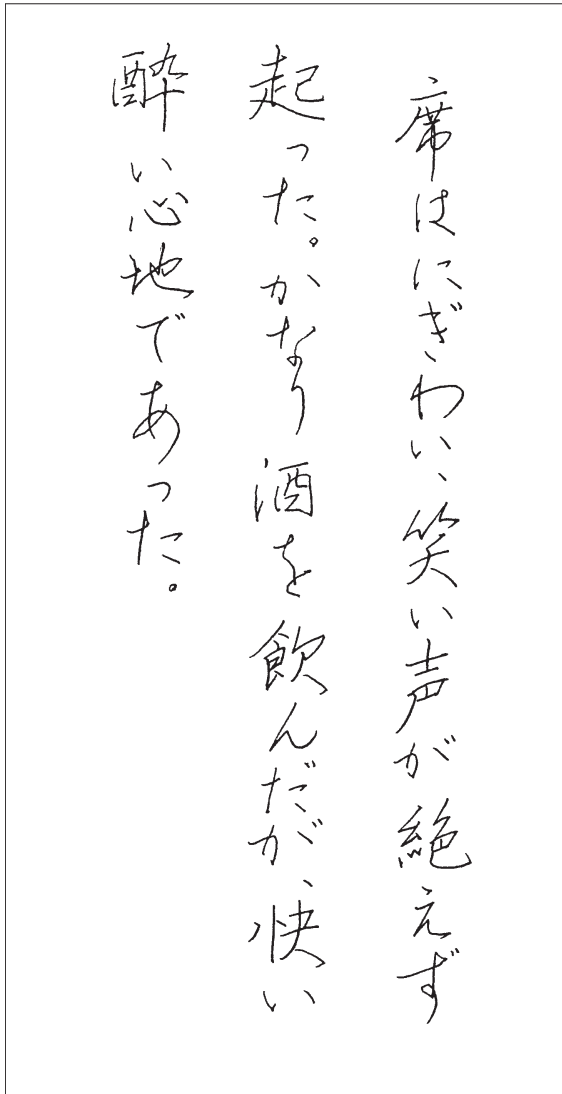
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

骨董は、待ってれば、必ずいつかは手に入るものである。待つ間のたのしみ、——それは墨をすっている間の静かな期待に似なくもない。

「美の遍歴」白洲正子

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四二〇円

課題2 (初段階以下)

席はにぎわい、笑い声が絶えず起った。かなり酒を飲んだが、快い酔い心地であった。

「虹の翼」吉村 昭